

令和3年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間・最終 )

両城中学校区 校番 20 学校名 呉市立港町小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	評価書文責・学校評議委員・学校評価委員・榎久仁裕 目標、指標の設定は適切である。新型コロナウイルス感染症が流行している社会的状況下において、目標、指標の設定を策定することは、困難を要したと思われるが、評価委員会は、その妥当性、相当性を認める。児童の生命、身体等の安全性を最大限に、配慮しながらの実践が期待できる。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策は、適切である。新型コロナウイルス感染症が全国的に、流行している時である故に、目標達成のための方策を、実践、実行するにあたっては、その時の状況に即して、機動的な発想が期待されると思われる。児童の身体、生命等の安全の最優先が、期待される方策を常に考慮していただきたい。換言すれば、方策の柔軟性を期待する。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	自己評価の結果と分析は、適切かつ妥当である。分析においても、客観性が見受けられる。適切な分析は、将来の教育実践において、その意義を有するものである。公教育の方向性を決するにおいて、分析の客観性、予断の排除は、必須の要素であるところ、これを有しているものと評価する。
今後の改善策(案)の適切さ	A	今後の改善策の適切さも肯定できる。新型コロナウイルス感染症が全国的に、流行している。今後の改善策に従って、本校の教育を実践することは、大切なことではあるが、この度の感染症の動向及び影響は、予測できないところである。場合によっては、臨機応変な対応を余儀なくしなければならないことを、教職員で認識し、情報の共有をお願いしたい。
その他		コロナ感染症が、全国に流行し、市民の生活様式も、変化を余儀なくさせられている。その中で教育現場でも数々の態様の変化が要求されている。誰もが初めて遭遇する事態である。コロナ感染症予防対策をしながらの教育の実践は、体力的にも精神的にも、想像以上の負担があると思われる。評価委員会は本校の教職員の努力を評価する。保護者にホームページのみならず学校評価そのものを配布していただきたい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>・本校の取組について、目標、指標の設定、方策、結果の分析、今後の改善策等は適切であると評価をいただいた。また、授業参観を通して、コロナ禍で制約が多い中、児童が落ち着いて学習に取り組んでいること、課題として返事や挨拶ができるよう指導すること、児童間の豊かな人間関係づくりを促進することなど貴重な意見をいただいた。教職員に、学校関係者評価委員会で出された意見や評価、期待をもって学校を見守ってくださっていることを伝えていく。</p> <p>・「今後の改善策」は、各部で話し合っって考え、全教職員に周知したものである。改善策が策のみで終わることがないよう、毎月の分掌部会で取組が進んでいるか振り返る。さらに企画委員会では、各部長から進捗状況やさらなる改善策を報告する。こうすることで「今後の改善策」を、学校一丸となって確実に進めていけるよう努力していく。</p>
--------------------	---